

令和7年度 釜石市観光審議会 会議録

- 1 開催日時 令和7年8月21日(木) 15時から16時45分
- 2 開催場所 釜石市役所第4庁舎3階会議室（教育委員会会議室）
- 3 出席者 ①委員：新里進委員、岩崎昭子委員、渋谷祭雄委員、河東英宜委員、  
谷澤栄一委員、松島理香子委員、和田利男委員、宮崎達也委員、  
遠藤ゆりえ委員、大井祥紀委員、森脇妙紀委員、菊池由美子委員  
(欠席)：瀬戸元委員、佐々木雄治委員、石塚佳那子委員、  
②市：小野共釜石市長（代理）平松福壽副市長  
産業振興部長 小山田俊一、商工観光課長 菊池拓朗  
商工観光課長補佐 前川靖展、主任 三嶋紘司、主事 佐々木巧  
③その他：顧問 山田桂一郎（欠席）

4 会議経過

(1) 開会

開会に先立ち、当初7月31日に開催予定であった本審議会が、同月30日に起きた津波警報発令に伴い、本日に延期されたことから、委嘱状は郵送対応した旨を菊池課長から説明し、釜石市観光審議会条例第7条第2項の規定により定数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言。

(2) 市長挨拶（平松副市長代読）

～平松副市長より挨拶～

(3) 顧問及び委員紹介

菊池課長より顧問及び出席委員を紹介。

【委員 新里委員、岩崎委員、渋谷委員、河東委員、谷澤委員、和田委員、宮崎委員、  
遠藤委員、大井委員、森脇委員、菊池委員、松島委員（遅参のため後程）】

【顧問 山田氏は欠席の為、菊池課長から略歴等の紹介】

(4) 協議事項

① 会長及び副会長の選出

釜石市観光審議会条例第5条第1項の規定に基づき、会長及び副会長を委員の互選により選出。選出方法を諮ったところ、事務局一任の声。

事務局推薦により、会長は新里進委員、副会長は谷澤栄一委員、全会一致で承認。

【新里会長】会長の職を仰せつかりました新里でございます。釜石市観光振興ビジョンは、来年で10年目となります。後半は色々なコンテンツがあり、それについて審議していただき、来年からは次期ビジョンについて審議していきたいと思っております。皆さまのご協力をお願いいたします。

【菊池課長】ここで、報告事項に移る前ですが、別用務により副市長が退席いたします。それでは、以降の進行は、条例第5条の規定に基づき、新里会長に議長をお願いしたいと思います。新里会長よろしく申し上げます。

## (5) 報告事項

【新里会長】本日の会議は、午後5時には終了したいと考えておりますので、皆さまのご協力をお願いします。

それでは、次第5の報告事項(1)、(2)は関連した事項でありますので、一括して事務局より説明をお願いいたします。

【前川補佐】～報告事項(1)について説明～

【河東委員】～報告事項(2)について説明～

【新里会長】先程、説明がありました件について意見、質問等ありませんか。

【宮崎委員】グリーンカーボンセットやブルーカーボンセットを販売したとありましたが、具体的には何を販売されたのでしょうか。

【河東委員】グリーンカーボンについては、(一社)フォレストック協会に、釜石地方森林組合が持っているグリーンカーボンセットの量をかまいしDMCにて販売しているということです。ブルーカーボンについては、釜石市が作ったブルーカーボン・オフセットという制度があり、実際に釜石に来るまでに排出した二酸化炭素の量をアプリで算出し、釜石湾域で吸収された二酸化炭素の量を、東京大学と岩手大学が作成した計算式に基づき算出。グリーンカーボンと同様にかまいしDMCが販売。主に大企業など、投資家に向けた非財務諸表の評価、イメージアップにつながることから一定の需要があります。

【宮崎委員】わかりました。どこの漁協でも行っているのでしょうか。

【河東委員】わかめや昆布の量を、計算式に基づき算出した量(クレジット販売分)を、3漁協へ返しています。

【小山田部長】補足として、現在は養殖しているわかめ・昆布だけを取り組みとしている状況です。また、わかめ・昆布の含水量を抜いて、どのくらい二酸化炭素を吸収しているかを計算する式を東大・岩大の先生に作っていただき、これによって算出したものを削減量として出しているということです。こういった事例は、横浜市と福岡市と釜石市で行っており、先行して行っておりました横浜市を参考にして、釜石版のブルーカーボンを作ったという経緯です。

【新里会長】どこかは不確かだが、やたらとわかめや昆布を養殖している所があると聞いたことがあって、ブルーカーボンを収入としている可能性があるということでしょうか。

【河東委員】可能性はあると思います。あと、横浜は殆ど売れなくて、もう辞められたと聞いています。また、この取り組みを始めてから、参考にしたいという他市町村から、問い合わせが多数寄せられております。

【小山田部長】全国的にも統一された取り組みがないので、他市町村からも釜石が注目されているのではないかと思います。

【岩崎委員】クレジットとはどのようなものなのでしょうか。

【河東委員】実際クレジットは、証書みたいなもので提供されます。最近聞かれなくなったGX（グリーントランスフォーメーション）、グリーンをお金に換えるという仕組みと同じようなのだと理解してもらえれば良いかと思います。

【岩崎委員】わかめや昆布の生産者が規模を大きく広げることで、生産者の収入の手助けになるという理解でよろしいでしょうか。

【河東委員】その通りだと思います。

【谷澤副会長】河東さんに先程ご説明いただいた、「誇りを持つ市民の割合」について、この割合をどうやって増やしていくのかという点で、市民全体が盛り上がってくれば、自然と観光の意識を持って色々なことが出来ると思う。そして、これをどう醸成していくか。漠然とはしていますが、様々な方からアイデアを出していただくことが必要かと思う。夜市やよいさも成功例のひとつ。また、宝来館の岩崎さんや浜千鳥の新里社長のよう、釜石には素晴らしい人達がたくさんいます。釜石の「人」に対してのリピーターを増やし、PRしていくのも方法の一つだと思う。「人」が観光資源だという認識も必要だと思います。例えば日詰商店街では店主の顔がマップになっていたり、町ゼミという無料で色々な分野の事を教えてくれるというコンテンツが存在する。こういった人と人との出会いが、それぞれの地域を盛り上げることに繋がっていくのではないかと感じます。

【新里会長】 続きまして報告事項（3）について事務局より説明をお願いします。

【前川補佐】 ～報告事項（3）について説明～

【新里会長】 先程、説明がありました件について意見、質問等ありませんか。無ければ全体を通して、何かご意見等ありましたらお願いいたします。

【岩崎委員】 今までの釜石の観光の歩み方は間違っていなかったと思っています。理由としては、先日、宝来館での定例イベントにおいて、谷澤さんに協力要請をした所、素敵な音楽イベントを催してくれました、このように会社や人の連携や協力体制が、釜石には深く根付いている。また、釜石のみならず、先日のカムチャツカ半島の津波警報の際も、遠野や内陸の宿泊施設が、分散して宿泊者を受けて入れてくれるなど、地域外連携も図れていると感じています。観光という分野の審議会ですが、防災という要素も取り入れていった方が良いと思います。

【和田委員】 「次期観光振興ビジョン策定について」の中の「オープン・フィールド・ミュージアム構想」も同時に見直し、作成する必要がありますか。

【前川補佐】 資料5には大きく「オープン・フィールド・ミュージアム構想」と書いてありますが、本構想はあくまでも、観光振興ビジョンの基本理念として掲げているものです。

【和田委員】 釜石市総合計画は、確か折返しに来ていると認識しているが、総合計画と「オープン・フィールド・ミュージアム構想」との繋がりはないのですか。

【前川補佐】 総合計画は上位計画であり、その下にこのビジョンがあるということになります。

【小山田部長】 釜石市総合計画は最上位計画であり、和田さんがおっしゃる通り、折返し時期となっているので、現在、見直し作業を進めている状況です。「オープン・フィールド・ミュージアム構想」や「観光振興ビジョン」は、総合計画の傘下にある個別計画の中の一つという捉え方です。であるからにして、双方の関係性（繋がり）はあるという認識が良いと思います。

【和田委員】 「オープン・フィールド・ミュージアム構想」についても見直しは必要でしょうか。

【前川補佐】 本構想の成果等を検証し、必要に応じて、次期ビジョンに向けて審議していただくことになると思います。

【遠藤委員】自身も4期目に入り、色々な釜石の観光の形が見えてきて、観光自体の盛り上がりも実感しています。河東さんに質問ですが、ご説明いただいた地域マネジメント方針と計画の部分で、「現在、インバウンド準富裕層を対象としたホテル投資案件を協議中」と、凄いことが書いてあるなど感じていましたが、準富裕層とはどのような方が対象なのか、お話しいただける範囲で構わないでお聞きできますか。

【河東委員】一泊20万円くらいのホテルと想定されていまして、ブランド等はまだ決まっていない状況です。

【森脇委員】10年ぶりに観光審議会に戻ってまいりまして、UIJターンで来た方、釜石以外に拠点をもち活動されている方など、大分雰囲気が変わったなという印象です。市外から釜石を変えていきたいという熱意がある方が来ていただいている状況は嬉しい反面、釜石ずっといる方との乖離が生じているというのも実感しています。住まう誇りを持つ方の割合も非常に低いと感じていますし、交通や買い物の不便さもよく耳にする。特に、鉄道の不便さが際立ちます。緊急時、迂回ルートや臨時運行バスなどが無い。こういった問題点から、観光を考える上で、交通機関の強化（特にJR）といったものが必要不可欠になるのではないかと感じる。

【渋谷委員】先程のJR釜石線の不便さについては、本当にお詫びしかありません。便を増やしたり、臨時バス対応などどうしていくかと考えたとき、なかなか一筋縄ではいかないというのが正直なところです。では何故、改善されないかという答えは、あくまでも私見ですが「需要がない」これに尽きると思います。釜石線の早い時間と遅い時間の平均乗車数を見ても30人、快速でも50人程度で、混雑時間でも乗車率30%。ユーザーの多くは高校生で、社会人は車を使うというのが現実です。県外の釜石に観光に来る方々の大半は、新花巻からレンタカーを利用する方が多いと聞いております。JRとしては、車を使わない理由にフォーカスを当てていくという方向性、例えば、車内で食事を楽しみたい方、景色を楽しみたい方など理由は様々だと思いますが、そういったユーザーを取り込む形の施策を作り上げていきたいと考えています。そして何より重要なのがアピールすること。どんなに良いコンテンツを作っても認知されなければ意味がない。釜石市も魅力がないわけではなく、認知されていないという状態なのではないかという印象があります。

【岩崎委員】大きな荷物を持って観光される方々が気の毒だと感じています。特に、海外のお客様は、大きなリュックにスーツケースと大荷物になることが多いため、小佐野駅のような階段が少ない施設という捉え方も、この審議会を考えていきたい。また、この度、根浜海岸でユニバーサルビーチを実施しましたので、「オープン・フィールド・ミュージアム構想」取り入れていただきたい。

【菊池委員】実際に観光分野に携わっているわけではないですが、私自身のビジョンの中に「フィルムコミッション」というロケ支援サービスを描いております。映画やドラマなどの撮影地に釜石を利用していただくという構想をしておりますが、オーバーツーリズムといった視点もあり、果たしてこのビジョンが釜石のためになるのかという疑問も残ります。有名スポットとなると、海外の観光客も増え、ゴミや観光地が荒らされる問題もテレビなどで見かけます。皆様の見解をお伺いしたいです。

【河東委員】ドラマや映画、アニメの有名スポットになって潤っている地域は、実際のところあまり存在しないと認識しております。先程お話しいただいた、オーバーツーリズムによって逆に問題になっている所も散見されます。誰をターゲットにしていくか、そういった所を慎重に考えていく必要があると思います。

【大井委員】初めて参加させていただいて、皆さまのお話を聞かせていただくと、とても難しい問題だなと感じています。私自身、宿泊業を立ち上げてちょうど1年になり、来ていただいたお客様から聞く話と今日のお話は、重なる部分が多いなと感じました。一番は交通の不便さの点です。広島でもう一店舗経営しているのですが、東京を起点に広島に行くのと、釜石に行くのでは物理的には広島の方が遠いはずなのに、何故か釜石に来る方が遠く感じてしまうという声や移動で時間を取られてしまうので、一泊二日では岩手に来づらいという声を耳にします。一方で、宿泊者のリピート率が約4割と高水準で、この一年で2回以上来ていただいている方が非常に多く驚いております。要因としては、谷澤さんが仰っていた「人」の魅力だと思います。こういった人の情報を可視化して、地域の事業者と繋がることによって、まだまだ釜石の魅力を発信できると思っています。

【新里会長】先程お見えになりました、前半の状況などわからないと思いますが、松島委員何かございますでしょうか。

【松島委員】遅れて大変申し訳ございません。釜石市国際外語大学の松島と申します。前半の状況が分からず申し訳ございませんが、本校の取組みについてご紹介できればと思っております。本校は外語観光学科がありまして、市内外から学生達に進学していただいております。市外から来た学生達には、釜石の新たな発見をテーマに勉強していただき、逆に地元出身の学生達には、釜石が現在取り組んでいることなどをインプットし、発信（アウトプット）していくという取組みを現在、ここ3か月くらいで行っております。

【河東委員】「オープン・フィールド・ミュージアム構想」についてですが、この構想については、かまいしDMCが作ったものではなく、釜石市にこれを実現してくださいと言われて立ち上がったのが我々の会社です。谷澤さんが仰る通り、ここで活躍した人とか、漁業や林業を生業としている人等、特に見せるものがない釜石の中で「人」を見せるこ

とも本構想のひとつだと解釈しています。とても良いコンセプトだと思いますし、これからも継続して取り組んでいきたいと考えています。実は、これを真似していた自治体がありまして、商標登録している関係で注意したこともありました。念のためお伝えしておきます。

**【森脇委員】** 人の見せ方や震災の伝承なんかもそうですが、実際に釜石に来るということは、交通の不便さという大きな弊害がありますから、逆に釜石の人たちが出向きセールスしてくることが必要だと思います。私自身、長野県のお寺さんに話をしてほしいと依頼がありましたので、その時には「是非釜石にいらしてください」と伝えてこようと思っております。このようにアピールをしていかなければならないと思います。先程の、広島の話に関しても物理的な距離もそうですが、心理的な距離間もあると思います。交通の不便という大きな障害を乗り越えるため、来てもらう種を撒く作業が、釜石の交流人口を増やすための最初の仕掛けだと思います。

**【新里会長】** 報告事項は全て終了いたしましたので、事務局にお返しいたします。

**【菊池課長】** 新里会長ありがとうございました。次第に沿って「その他」でございますが、皆さまから何かございますか。無ければ、最後に事務局を代表して、産業振興部長の小山田より一言申し上げます。

**【小山田部長】** 皆さま、貴重なお時間誠にありがとうございました。様々な視点からご意見を頂いたと感じています。本日ご説明した通り、次期ビジョンを作ってまいりますので、皆さまからのご意見をまとめた上で、今後10年間の構想ビジョンを創り上げていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。本日、私が感じたのは、観光振興の取組み、目的を改めて認識しました。地域の魅力の向上というのも大事ですし、宿泊、飲食、交通、小売などを通じた地域の活性化、あるいは幅広い分野で雇用に繋がるとというのが、正に観光の動き、取組みなのだと思認識した次第です。人口も減って厳しい中で、今後10年間を見通した観光振興ビジョンを作っていくわけですが、将来に向けて明るいビジョンを描きながら作っていかれたらと考えています。引き続きご協力お願い致します。

**【菊池課長】** 委員の皆様におかれましては長時間にわたり、ありがとうございました。以上を持ちまして、令和7年度釜石市観光審議会を終了いたします。なお、次回の観光審議会は来年度を予定しておりますので、引き続きよろしくお願い致します。本日は、誠にありがとうございました。